

# 香川県オリジナル温州みかん 「小原紅早生」の栽培技術の確立



香川県農業試験場府中果樹研究所 森末 文徳

かがやくけん、かがわけん。

香川県

Kagawa Prefectural Government

# 香川県の果樹生産と「小原紅早生」

## ■ 果樹生産の特徴

- ・全国一狭い県土面積のなかで、かんきつ類からりんごまで多くの品目を栽培
- ・全国をリードできるような生産量の品目はないが、瀬戸内式気候を活かして、高品質な果実を生産
- ・オリジナル性のある品種や技術を生かした特色ある産地づくりに取り組んでいる

品目	結果樹面積(ha)			順位
	全国	香川県	比率(%)	
うんしゅうみかん	37,800	1,000	2.6	12
もも	9,290	165	1.8	9
ぶどう	16,500	163	1.0	22
かき	18,500	165	0.9	28
キウイフルーツ	1,900	58	3.1	7

令和2年度作況調査（果樹）（農林水産省）

## ■ 温州みかん「小原紅早生」の来歴

- ・坂出市で発見された「宮川早生」（早生温州）の突然変異（枝変わり）系統で、平成5（1993）年に品種登録

## ■ 特性を踏まえた振興計画

- ・果皮が濃紅色で他品種との区別性は抜群
- ・低品質果実の混入は、品種のイメージダウンにつながる
- ・そこで、品種特性を発揮させ、高品質果実の安定生産技術と長期出荷技術を確立することで、ブランド化を図ることに



かがやくけん、かがわけん。

香川県

Kagawa Prefectural Government



# 品質向上技術の開発

## ■ マルチ栽培

- ・糖度の上昇期である夏秋期に地表を白色透湿性シートで被覆することで降雨を遮断
- ・糖度は高くなるが、過乾燥による高酸化と小玉化が課題
- ・長期的には、樹勢の低下や隔年結果の増大も

## ■ 点滴(ドリップ)かん水の導入

- ・近畿中国四国農業研究センター(現:西日本農業研究センター)が開発したマルドリ(マルチ・ドリップかん水)栽培による品質向上技術について両者で共同研究

## ■ かん水技術の開発

- ・梅雨明け後に地表をマルチで被覆、満開90日後までは5日おき1mm/10aかん水【中間水切り】、満開90～110日後までは5日おき4mm/10aかん水【戻しかん水】、以降は収穫まで5日おき2mm/10aかん水【仕上げ水切り】により多雨年でも糖度12.5を達成



かがやくけん、かがわけん。

香川県

Kagawa Prefectural Government

# 連年安定生産と樹勢強化技術の開発

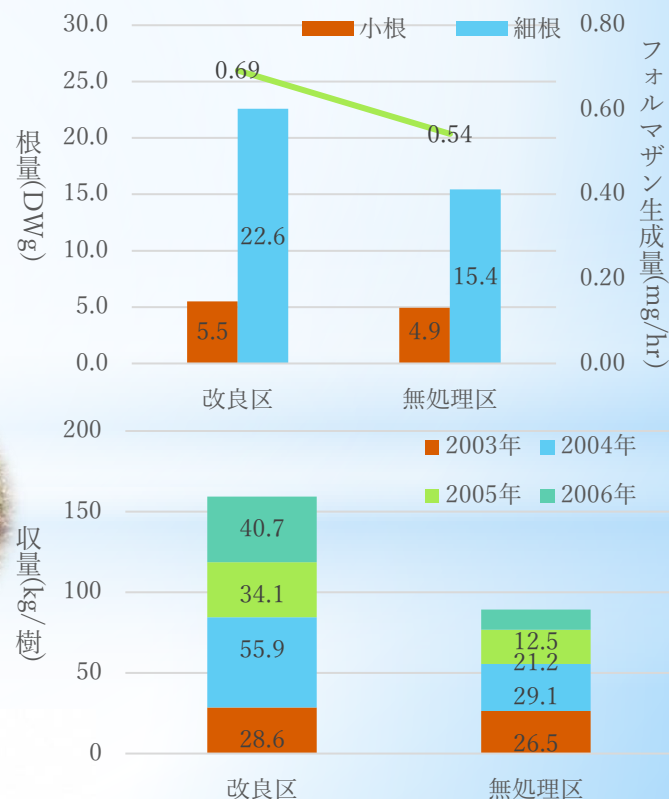
## ■後期重点摘果

- ・従来よりも遅い時期に一気に摘果を行うことで、品質向上と安定生産の双方を達成
- ・労力が一時期に集中するという課題は残るが、高品質で、商品性が高い階級の果実を生産可能

試験区	果皮色 a*値	糖度計示度	クエン酸濃度(%)	収量(kg/樹)	M～S級果数割合(%)
後期重点摘果区	78.87	14.3	0.85	3.2	70.4
慣行摘果区	73.63	13.2	0.88	3.6	61.6

## ■高水圧剥皮機を利用した省力土壌改良技術

- ・落葉果樹の粗皮削りに使用するバークストリッパーから噴出する水力を利用し、地表に穴を掘削
- ・穴に有機物を投入することで、細根量が増加し、樹勢が強化され、収量も増加

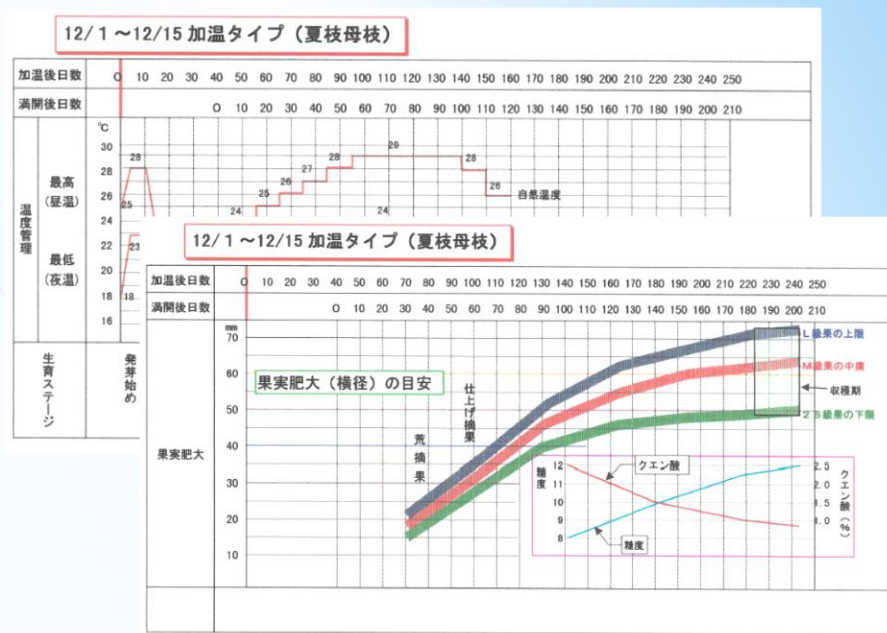




# 長期出荷技術の開発

## ■ハウス栽培(7～8月出荷体系)

- ・新規栽培者のためのマニュアルづくりの必要
- ・温度管理と果実肥大、品質について加温開始日を基準とした早見表を作成し、生産者に配布



## ■樹上完熟栽培(1～2月出荷体系)

- ・寒さから果実を護るため、果実一つずつに紙製の袋をかけ、完熟させて収穫
- ・濃厚な食味で消費者から好評
- ・供給量を拡大するために遊休ハウスを利用した雨よけ栽培について検討
- ・省力的な生産技術として定着
- ・「春節みかん」として東南アジア諸国への輸出も

かがやくけん、かがわけん。

香川県

Kagawa Prefectural Government

# ブランド化と取り組みの成果

## ■ 光センサーデータのフィードバック

- ・光センサーによる選果結果(糖度の構成比、階級比等)を生産者にフィードバックし、高品質果実生産に誘導

## ■ 「さぬき讚フルーツ」推奨制度

- ・県による品質認証とプロモーションによる販売促進

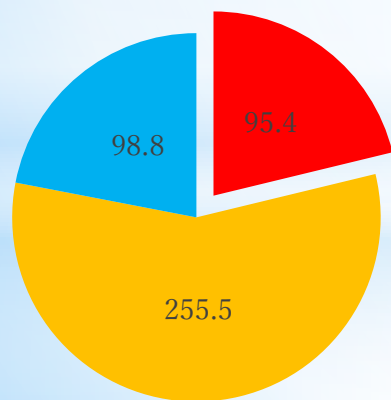
## ■ 地理的表示(GI)への取り組み

- ・品種登録期間の満了により、品種と栽培技術を引き続き保護するため、「かがわ小原紅早生みかん」として平成29(2017)年に登録



## ■ 取り組みの成果

- ・現在では早生温州全体の栽培面積のうち約20%を占める
- ・主要な早生温州である「宮川早生」と比べて約1.5倍の単価



■ 小原紅早生 ■ 宮川早生 ■ 興津早生

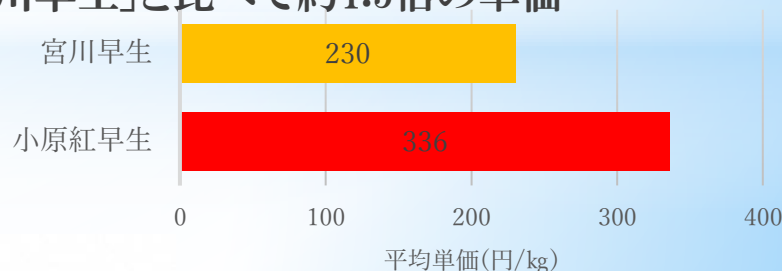
県内での栽培面積(ha)

令和2年度特産果樹生産動態調査(農林水産省)

かがやくけん、かがわけん。

香川県

Kagawa Prefectural Government



令和3年(2021)産平均単価の比較

JA香川県調べ